

第4回
江戸川区ひきこもり支援協議会
議事録

江戸川区福祉部

第4回江戸川区ひきこもり支援協議会

日 時：令和5年5月15日（月）午後2時30分から午後4時20分

場 所：江戸川区グリーンパレス 集会室402

出席者：委 員 学識経験者、ひきこもり支援専門家、医療関係者、相談支援関係者
町会自治会関係者、民生・児童委員、就労支援関係者、教育関係者、
居場所事業関係者、江戸川区福祉部長、ひきこもり経験者の家族、ひき
こもり経験者
事務局 福祉部生活援護第一課長、みんなの就労センター局長、
ひきこもり施策係職員

- 議 案：1. ひきこもり支援施策について
2. (仮称) 江戸川区ひきこもりの状態にある者やその家族へのサポート推進条例
について
3. その他
4. 閉会

議 事

1. ひきこもり支援施策について

令和5年度のひきこもり支援事業の体制について、事務局から説明。

居場所事業について、株式会社ホワイトビード（委託事業者）から説明。

相談支援事業について、株式会社キズキ（委託事業者）から説明。

令和5年度の実施予定事業について、事務局から説明。

【委員から出た意見】

<居場所事業について>

- ・駄菓子屋居場所よりみち屋の地域のイベントへの参加について、居場所利用者にとっては、ハードルの高いものになる場合もあるため、十分に利用者の意見を聞いたうえで実施してほしい。
- ・よりみち屋で手話教室や刺繍教室などを行っていることについて、他の地域の人たちから「自分たちの地域にもそういう場がほしい」という声が上がっている。
- ・よりみち屋がひきこもりの状態にある方やその家族、また、地域にとってもより良い場所となるように、主管課と委託事業者で調整をしながら進めてほしい。
- ・よりみち屋は居場所と就労という事業であるが、ひきこもりの状態にある当事者が居場所に来てほっとできることが大切なので、焦って就労につなげるようなことをせず、利用者のペースに合わせて進めてほしい。就労は、関係機関と適切な連携をとるとより良いサポートにつながると思う。

<相談支援事業について>

- ・ひきこもりの状態に至る背景は多様であり、抱える課題に対応するためには、それぞれの背景を十分に理解し、関係機関と連携した支援及び寄り添ったサポートをしてほしい。
- ・ひきこもりの相談受付時刻について、ひきこもりの状態にある人は日中に活動をしない

方もいるので、そういった方の活動時刻に合わせ、夕方や夜間でも相談対応ができるとよい。

- ・よりみち屋を利用する人のなかに、スタッフと2,3時間話をした後に、ひきこもりの状態をカミングアウトするといった方もみられる。そこで、月に1回など定期的に、よりみち屋へ相談支援員を派遣してもらって、利用者が相談できるとよい。

<令和5年度実施予定の施策について>

- ・実態調査未回答世帯へのアプローチとして、「ひきこもり」という言葉自体のイメージが悪く、回答をしない要因になっているかもしれない。何か言い換えるものがあるといい。
- ・未回答世帯数が70,000世帯というのは対策を考えるにしても多すぎる。未回答世帯の振り分けが必要。
- ・区内一斉に未回答世帯への調査をかけるのではなく、なごみの家のある9地区のうち一つからパイロットスタディという形で何か調査方法を試してみるのもよいと思う。
- ・LINEから調査に回答できるような仕組みについて話があったが、ほかのSNS（Instagram、twitterなど）も使って、調査について広報したほうが良い。
- ・相談支援の方法として、LINEの導入の話があったが、LINEの性質上、利用者はすぐに返信してほしいと考えるものなので、その対応は十分にしてもらいたい。

2. (仮称)江戸川区ひきこもりの状態にある者やその家族へのサポート推進条例について事務局から説明。

【委員から出た意見】

- ・ひきこもりの状態にある人やその家族にとって、サポートについての情報が手に入るかどうかで、受けられるサポートに大きな差が生じる。そのような情報格差が生まれないように十分に配慮してもらいたい。
- ・施策の推進に当たっては、各機関の「連携」がとても大切になってくるので、条文の中に「連携」の言葉をぜひ加えてほしい。

3. その他

- ・今年度区が作成したリーフレット3種類を紹介。

- 1 「江戸川区ひきこもり相談」
- 2 「江戸川区ひきこもり支援推進事業」
- 3 「江戸川区駄菓子屋居場所よりみち屋」

以上3種類について、区内各施設へ設置済みを報告。

4. 閉会